# インタビュー

㈱アールティ
代表取締役
## 中川 友紀子 氏

# ロボット教材開発事業を加速
## 全国の大学・研究機関が活用

㈱アールティ（東京都千代田区外神田3―9―2、☎03―6666―2566）は、2005年設立のロボット・AIベンチャー。ロボットを活用した教材開発を主力事業として展開しており、全国の大学の授業・研究機関のトレーニングなどで使用されている。今回、代表取締役の中川友紀子氏に話を伺った。

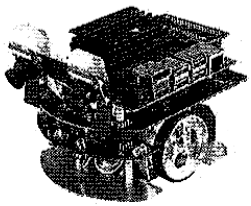
――貴社の設立経緯は。

中川　AIを活かしてスマートなロボットサービスを提供したいという想いをもとに05年に当社を設立し、そこからAIを実装するハードウエアの開発も手がけるようになりました。現在は「プロフェッショナルAI／ロボティクスエンジニアを育てる」をキーワードに、高専・大学、企業研修をターゲットにした教材開発を主力事業として展開しています。また、教育開発事業のアッパーセールスとして、AI・ロボットに関する受託開発事業や、協働型の食品工場用ロボット「Foodly」の開発なども行っています。

――そのうち教材開発事業について教えて下さい。

中川　AIの実証実験が可能な教材用のプラットフォームロボット「Prototyping Robot-Platform」の開発を行っています。オープンソースかつ本番環境への移植を想定したロボットに加え、教科書も同時に作成しており、実習を通して基礎から応用技術まで習得できるようになっています。

特徴の1つとして「ロボットが教科書と同じように動く」ことにあります。これは当たり前のように感じられるかもしれませんが、ロボットや電子機器を理論に沿ったかたちで動くように作るには、誤差の吸収などを考慮しなければならず、高い技術力が必要になります。当社のロボットは「教科書と同じように動く」を実現しつつ、機体をコンパクトにまとめ、教科書もセットで提供するという点が特に評価を得ています。



幅広いロボット教材をラインアップ（写真はJetson Nano Mouse）

――ロボットのラインアップや活用事例について。

中川　教材用としては教材、実証実験向けとしては、車輪型ロボット「Pi-CoCoClassic3」（ピーコクラシックスリー）、Raspberry Piを搭載した小型車輪型ロボット「Raspberry Pi Mouse V3」（ラズベリーパイマウスブイスリー）、小型の4軸多関節型マニピュレーター「CRANE+V2」（クラインプラスブイツー）、7軸マニピュレーター「CRANE-X7」（クラインエックスセブン）、上半身人型ロボット「Sciurus17」（シューラスセブンティーン）などをラインアップしており、幅広いニーズに対応できるため、これまでに、自動車会社グループの研修、電機メーカーのロボット部署の研修、国内外の大学での授業や実証実験などに数多く活用されています。

――開発面での新たな取り組みや注力されていることは。

中川　NVIDIAの小型AIコンピューター「Jetson Nano」を搭載し、深層学習を使った小型車輪ロボットの学習ができる「Jetson Nano Mouse」の開発や、ロボット製作を通してプロジェクトマネジメントを学ぶライントレーサーの「Training Tracer キット」ならびに教育プログラムを開発しています。また、映像を通した講習会およびワークショップの考案などを通じて、ウエビナー（ウェブ+セミナー）時代の学びとハンズオン（体験型学習）を両立するようなロボットキットとセミナーを提案していきたいと考えています。

――20年度の方針ならびに今後の抱負を。

中川　新型コロナウイルス拡大防止施策の動向次第ではありますが、今後、テレワークや在宅研修などが増えることで、小型のロボットキットでの研修やウェブセミナーなどのニーズが高まるとみており、映像だけのハンズオンでどこまで実機製作のセミナーができるのかをしっかりと確かめていきたいです。

現在、教育用ロボット市場は中国のベンチャー企業が廉価な製品を日本でも投入していますが、当社は教育プログラムという点で付加価値を提供しており、中長期的にはグローバル展開も視野に入れながら、ロボット+ウェブでのネット講義で、質の高いAI・ロボティクスエンジニアを世界中で育てていきたいと考えています。

（聞き手・浮島哲志記者）